

ある町の 天気相談所

Vol.96

2025.12.05

令和7年12月号



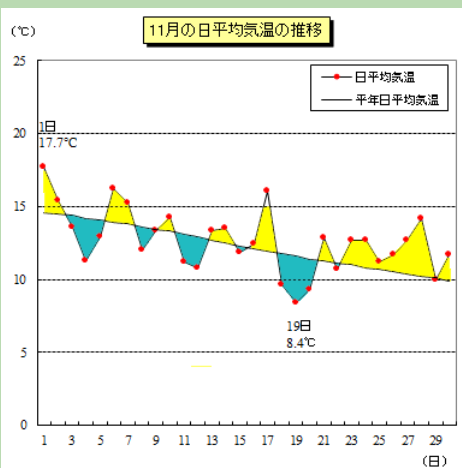
木々の色づき



11月になると木々がみどりから赤や黄色く変わってきました。近年は気温が高い影響で色づく時期も遅くなっていました。11月は冷え込む日もあり、気温の変化が大きくなったため、昨年よりも早く木々も色づきました。(写真は11月29日の市役所から西方向の様子)

11月の気候

11月は、周期的に低気圧や高気圧が通過することが多くなりました。中旬にかけては寒気が入る日もありましたが、下旬は暖かい空気が入ることが多く、11月の月平均気温は12・6度と平年並みの気温となりました。雨が降った日は多くありましたが降水量は少なく、月合計降水量は11・0ミリと平年の15パーセント。月合計日照時間は176・7時間と平年の111パーセントと多くなりました。



一ヶ月予報 (気象庁発表)

高気圧に覆われやすくなるため、平年に比べ晴れの日が多い見込みです。平均気温は「ほぼ平年並」、降水量は「平年並みか少ない」、日照時間は、「多い」となる見込みです。

火災と気象

火災が起きやすい気象条件には、まず乾燥があげられます。雨が降らない日が多くなると空気が乾燥してきます。空気の湿り具合は湿度で表されますが、一般に湿度という「相対湿度」のことを言い、その空気の中にどれくらい水蒸気があるかを割合で示します。なお、空気は温度によってためられる水蒸気の量が違ってくるため、湿度が同じ70パーセントでも、気温が30℃と10℃とでは含んでいる水蒸気量は違います(気温が高いほど含む水蒸気の量が多くなります)。

実効湿度というものもあります。これは木材の乾燥具合を表すために作られており、数日前からの湿度により計算されます。茨城県では最小湿度が40パーセント、実効湿度が60パーセント以下が予想されると乾燥注意報が発表されます。

さらに強風が予想されると、延焼しやすくなります。日立市でも、1991年3月7日助川山の山麓から山火事が発生し、住宅団地まで燃え広がる火災がありました。この時の市役所観測所では、最小湿度は14パーセント、最大瞬間風速は、西北西の風16・5メートルが観測されており、山を越える乾燥した強風により、延焼しました。日立市では、特に冬の期間は季節風が強まり、空気が乾燥することが多くなりますので注意が必要です。

天気用語の基礎知識

警戒レベル レベル5

警戒レベル5は自治体が発表する、「警戒レベル5緊急安全確保」が該当する。気象庁が発表する情報としては、大雨特別警報、氾濫発生情報であり、気象庁がこれらの情報を発表すると、自治体はキックル等で災害切迫な場所などを確認し、地域を指定してレベル5緊急安全確保を発令する。レベル5の段階では、何らかの災害がすでに発生している可能性が極めて高い状況であるため、避難所に避難するのではなく、命の危険が迫っているため直ちに身の安全を確保する必要がある。

・・・神峰の山から・・・

「良い文章をつくるためには、どんなものでも良いので活字を読んだ方が良い」と職場の研修であつたため本を読むようにしています。しかし書籍購入では費用がかかり、図書館等では期限が決まっているなど、隙間時間でも読める何か良いものはなかと探つてみると、小説投稿サイトというものを見つけました。アマチュアの方が投稿しています。作品が実際に出版されることもあり、様々なジャンルのお話がありまふ。読んでいるうちに好きな作家さんまできたりして結構楽しめています。

発行 日立市天気相談所
日立市助川町1丁目1番1号
電話 0294 (22) 5520